

江戸初期筆「秋田城介型付」の復元・報告と討議

能の演技は口伝だけではなく、役者の動きを書き留めた「型付」によっても伝承されてきました。

江戸初期に書かれた「秋田城介型付」は、同時代の型付と比べると詳細な記事内容ですが、現在とは異なる用語等も多く、実際にはどのような型で演じられていたのか、読んだだけではわからないことがあります。

今回、「秋田城介型付」をもとに能〈花月〉の型の復元（面・装束を着けない袴能の形式）をおこないました。はたして「秋田城介型付」には、能一曲を演じるための情報がすべて記されているのでしょうか。役者が補わなければならないことがあるとすれば、それはどのようなことでしょうか。

復元した型を映像で見ながら、復元の過程と内容を報告します。

入 場 無 料

申し込み不要。直接お越しください。定員100名

2014年
11月24日(月・振替休日)

14:00～16:30(開場13:30)

◎場所：法政大学市ヶ谷キャンパス
ボアソナードタワー 26 階
スカイホール



●主催：法政大学能楽研究所

「能楽の国際・学際的研究拠点」

●問い合わせ先：法政大学能楽研究所

TEL. 03-3264-9815

江戸初期筆
「秋田城介型付」の復元：報告と討議

東北大学附属図書館蔵「秋田城介型付」は、下間少進に能を習った大名秋田城介が、少進から相伝を受けた型や金春大夫などから習った型を書きとめた資料です。秋田城介型付研究会では、2011 年より「秋田城介型付」の翻刻と内容の研究をおこなってきました。このたび翻刻作業が完了し、年度末には翻刻集の刊行を予定しています。

2012年11月には「秋田城介型付」のクセとキリの部分を対象に、ワークショップ「江戸初期型付に基づく実験的復元」をおこない、部分的な復曲に取り組みました。

今回の企画では、「秋田城介型付」に記されたとおりに能〈花月〉の型を復元します。一回目の復曲の成果もふまえて用語の精密な解説を積み重ね、復元を試みました。

復元の結果は、事前に撮影した映像によって公開します。「秋田城介型付」は金春流系の型付ですので、今回の復元は、シテ方金春流の能楽師井上貴覚氏、辻井八郎氏、狂言方大蔵流大蔵教義氏にご協力をお願いしました。

14:00～15:30	〈花月〉復元の報告 中司由起子（法政大学能楽研究所兼任所員）
15:30～15:50	「秋田城介型付」における“ヨセイ” 柳瀬千穂（法政大学大学院博士後期課程）
16:00～16:30	討議 井上貴覚（シテ方金春流能楽師） 柳瀬千穂・中司由起子

「秋田城介型付」研究会メンバー

江口文恵（法政大学能楽研究所兼任所員）・中司由起子・

深澤希望（法政大学大学院博士後期課程）・柳瀬千穂・

小田幸子（明治学院大学非常勤講師）・山中玲子（法政大学能楽研究所所長）

- 主催：法政大学能楽研究所「能楽の国際・学際的研究拠点」
●問い合わせ先：法政大学能楽研究所 03-3264-9815

2014年 **11** 月 **24** 日(月・振替休日)

14:00 ~ 16:30 (開場 13:30)

- ◎場所：法政大学市ヶ谷キャンパス ボアソナードタワー 26 階 スカイホール
◎入場無料（申し込み不要。直接お越しください。定員 100 名）
◎お問い合わせ先：野上記念 法政大学能楽研究所
〒102-8160 東京都千代田区富士見 2-17-1
ボアソナード・タワー 23 階
電話／03-3264-9815 ファクス／03-3264-9607

